

# 施工方法 (粉末タイプ、ペーストタイプ)

## ビニールクロス

※薄手のビニールクロスで、  
プラスターボードか合板に貼っているものに限りです。

珪藻土壁材〈エコ・クイーン〉は弾力性がありません。施工前に下地に動きがないか確認の上、施工してください。

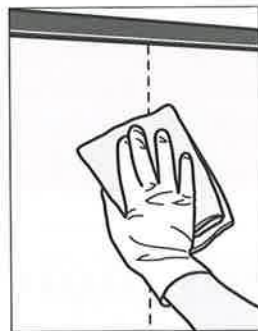
### 最初に、施工面をチェックしてください。

- 浮き・剥がれ** クロスが部分的に接着していない箇所は、しっかりと貼り直してください。そのまま施工しますと、仕上げ面がコブのように浮き上がることがあります。
- 密着力** 新しいビニールクロスの中には、壁材との密着力が悪いものがあります。目立たないところで〈NGU〉、または、〈ペーストタイプ〉を少し塗り付け、2~3日後に接着力をチェックしてください。
- カビ** カビが生えている所は、消毒用エタノールで確実に殺菌してください。カビが残っていると、仕上げ面に出てきます。

以下のようなクロスは剥がして施工してください。(施工手順は14~15ページ)

- 厚手(発泡)のもの (気温の変動に伴う伸縮が大きく、仕上げ面に小ヒビが入る恐れがあります)
- コンクリートに直貼りされているもの (タッカー留めができず、将来、クロスごと剥がれる恐れがあります)
- 汚れの付着がはげしいもの (汚れが要因となって壁が剥離する恐れがあります)
- 天井面の古いクロス (汚れが付着しやすい場所であり、壁剥離やシミの要因となる汚れを除去することが困難です)
- 剥がれかかっている箇所が多い (施工後、コブのように浮き、仕上げ面に影響を与える恐れがあります)
- カビが下地のボードにまでおよんでいる (カビを確実に殺菌できず、仕上げ面に出てくる恐れがあります)
- 下塗材〈NGU〉の消石灰に反応して異臭を放つもの → 外見から判別することができません。チェック方法は21ページ  
※ペーストタイプで仕上げ塗りをする場合は剥がす必要はありません(ペーストタイプは消石灰を使用しておりません)。

### 1 施工面の清掃



中性洗剤を水で50~60倍に薄め、雑巾で汚れや油分を完全に落としてください。タバコのヤニは、水ぶきの方がきれいに落とせます。

汚れが残っていると、壁剥離やシミの原因になります。

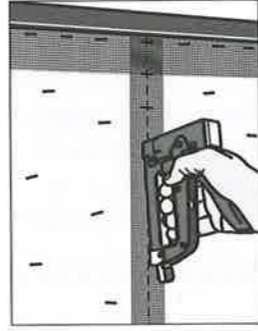
### 2 ファイバーテープ貼り



クロスと継ぎ目にファイバーテープを貼ってください。(図A参照)

ファイバーテープは、よじれたり浮いたりしないようしっかりと密着させてください。

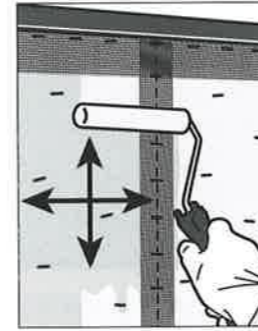
### 3 タッカー留め



クロスと継ぎ目と端は、10cmの間隔で、その他は10~15cmほどの間隔でタッカー留めしてください。

施工面から浮いているタッカーの針は、押しこんでください。

### 4 シーラー塗布 (密着力強化)



塗りムラがないようローラーはタテ・ヨコ両方向に動かしてください。

水性シーラーを施工面に塗布してください。

塗り残し、塗りムラがないよう、ていねいに塗ってください。

〈粉末タイプ〉はこちら →

乾燥

### 5 下塗り

下塗材〈NGU〉を塗ってください。(標準施工厚:1mm)

下塗りで平らな面を作っておくことが、仕上材をきれいに塗るためのポイントです。

下塗材〈NGU〉の消石灰に反応して異臭を放つクロスがありますので、ご注意ください。チェック方法は21ページ

ペーストタイプはこちら ↓

〈ペーストタイプ〉は接着力が強いので、ビニールクロス下地の場合、「下塗り」を省くことができます。

乾燥

### 6 仕上げ塗り

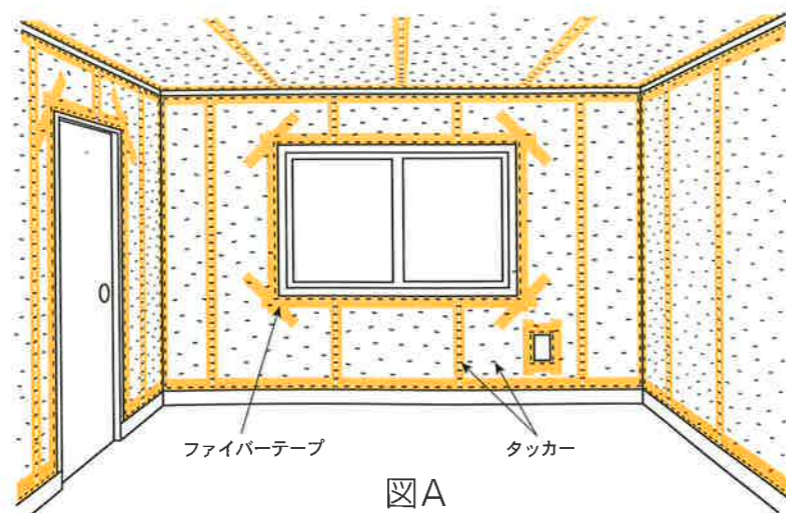
仕上材を塗ってください。(標準施工厚:2mm)

仕上げ塗りの要領は22ページ

### 5 仕上げ塗り

仕上材を塗ってください。(標準施工厚:1.5mm)

仕上げ塗りの要領は22ページ



ファイバーテープ タッカー

図A